

翻訳にあたってのヒント

その 40

英辞郎は時にはエー辞郎？

最近、「発破」の英訳を英辞郎で引いたら、“torpedo”と出てきた。発破（作業）とは、産業用に火薬類を用いて物体を破砕するというれっきとした作業のことであり、間違いをおかせば大変な物損事故や人身事故を起こしかねない非常に危険な業務だ。手元の資料によれば、発破技士という免状を有する者（あるいは大学・高専・高校で応用化学、採鉱学または土木学科を専攻して卒業後 1 年以上発破業務について実務を経験した者）、火薬類取締法の火薬類取扱保安責任者免状を有する者、保安技術職員国家試験規則による (i) 甲・乙または丁種上級保安技術職員試験に合格した者、(ii) 甲・乙または丁種杭外保安技術職員試験に合格した者 (iii) 甲・乙または丁種杭内保安技術職員試験に合格した者のいずれかであれば業務に就くことはできない、とあるほか、発破の対象物体として、岩石・石炭・鉱床・石灰石・土壌・樹木・氷塊・コンクリート・石材・建造物があり、その様式には、トンネル掘進発破（炭鉱・土木・鉱山などにおける）、ベンチ発破（石灰石などにおける）、採鉱・採炭発破（鉱山・炭鉱における）、水中発破（港湾工事・岩礁除去における）、土発破（土壌改良などの）、都市土木発破（市街地などの）などがある、ともある。

我々の知らない所で社会と生活に役立っているこの発破を単に“torpedo”（その主な意味は、魚雷、機雷、水雷、あるいはシビレエイなど）と片付けられては大変である（しかも、発破産業の嚆矢となったダイナマイトがノーベル賞の提唱者であるアルフレッド・ノーベルによって 1867 年に発明されたという経緯もあるのだ）。ちなみに現代では、単に“torpedo”と言えば、「mechanical torpedo=機械水雷（機雷）=naval mine、underwater mine、あるいは単に mine」や「self-propelled torpedo=自走式水雷、魚形水雷（魚雷）」のことを指すそうである。

英辞郎の資料は PDIC というソフトウェアを使って、日頃からよく参照しているが、この例にみられるように、はてな？と首をかしげたくなるようなものも数多く収録されている。収録語数が 100 万語以上あり、そういった意味では使いでがないとは言いきれないが、出典が明記されていなかったり、単に語数だけをかσειでいるだけといたりしたところもあるから、英辞郎から用例をひっぱる場合には注意が必要である。

とはいえ、筆者は英辞郎を真っ向から否定している訳ではない。中には専門辞書にも載っている標準的な訳語も多々収録されているばかりか、市販されている英辞郎には PDIC も付いているからこれを活用して、ユーザー辞書にかなりの用語や用例を収録させておけば、英辞郎だけに留まらない多様な用例を引用可能だからである。

英辞郎だけを鵜呑みにせず、自然な訳出を心がける！これが訳語選定にあたっての基本

である。

◆ 以下は、発破の英訳例：

blasting work, blasting, blasting operation, firing, shot, shooting など。

◆ 豆知識：

英米法には「発破説示」なるものが存在する。これは、別名「アレン説示 = Allen charge」
とも呼ばれるもので、裁判官が、意見が割れている陪審員に対して他の陪審員の意見に耳
を傾けもっと心を開くようにと告げる説示のことを指し、その説示を合憲とした連邦最高
裁判所判決 Allen vs. United States (1896) に由来するものである。この他の別称は、
dynamite charge、dynamite instruction、shotgun instruction、third-degree instruction。
ちなみに、「説示」とは、裁判官が裁判の最後の段階で、評議を始める前の陪審員に対して、
事件の概要や内容、証拠の評価で注意すべき点、法律上の問題点などを説明したり助言を
与えたりすること、またそういう文書のこと、instructionsとも称され、[英]では summing
up あるいは summing-up とも呼ばれているようである。

以上、これにて第 40 回目終わり。